

プログラム

12月11日（土） シンポジウム《国際的視座からみた壱岐国一島史》

（定員 200 名．Microsoft Teams）

このシンポジウムでは、近年の東アジア史・海域史研究の進展を前提に、近世以前の各時代において、「壱岐国」が果たしてきた歴史的な役割や意義を明らかにしつつ、これを国際的な視座から俯瞰する。かつて、壱岐国研究の第一人者、山口麻太郎氏は、この「小さな島」を国際的な視座から研究することを標榜した。こうした壱岐国研究のあゆみを、それぞれの時代ごとに振り返り、その研究の到達点と限界を認識しつつ、壱岐国の歴史を東アジアひいては国際的な動向・情勢の中に位置づけたい。あるいは、位置づけるための方法について、提示してみたい。今回の登壇者は、それぞれの時代における壱岐国研究のエキスパートである。このシンポジウムが、「小さな島」をめぐる研究の新境地の開拓に寄与できれば幸いである。

13:00 開会・注意事項説明

13:05 開会挨拶

13:10 〈趣旨説明〉

九州大学 岩崎 義則

13:30 壱岐における大型古墳群造営と古代東アジア

九州大学 辻田 淳一郎

14:00 古代壱岐島の防衛体制

佐世保工業高等専門学校 堀江 潔

14:40 中世壱岐の国際的位置—海上交通の視点からみた—

国立歴史民俗博物館 荒木 和憲

15:10 壱岐捕鯨業の展開と地域社会の成熟

九州産業大学 古賀 康士

15:50 〈コメント〉

長崎活水女子大学 細井 浩志

16:10 〈質疑応答〉

16:40 〈総括〉

九州大学 伊藤 幸司

12月12日（日） 研究発表

<日本史部会> （定員 200 名．Microsoft Teams）

12:30 明治40年皇室典範増補前史
—佐佐木高行の皇室典範改正論を中心として—

九州大学 国分 航士

13:20 立憲的制裁？—星亨除名事件の再検討—

九州大学 原口 大輔

14:10 昭和戦前期における右翼運動と選挙

九州大学 高野 恵

15:00 押小路家本「補任長押紙書様事」について

福岡女子大学 井手 麻衣子

15:50 頼春水と自得の思想について

広島県教育委員会／九州大学 伊藤 大輔

16:40 南北朝・室町期における大内氏と室町幕府

九州大学 境 春海

＜東洋史部会＞（定員 100 名．Zoom）

13:00	17 世紀初頭の南澳島と台湾-日本貿易 —大員港の「倭寇」と海商林錦吾—	九 州 大 学	夏 欽
13:40	五代北宋の病囚院について	南 京 師 範 大 学	劉 可 維
14:20	明末清初上海天主教会と徐光啓一族の経済往来—田房を中心に—	上海社会科学院	史 習 隼
15:15	チベット仏教世界の「再編」からみる雍正帝の対チベット政策	鳥 取 大 学	柳 静 我
16:00	第一次世界大戦期のイギリスによる中国人労働者の徴募活動について —宣教師による役割を中心に—	金 沢 大 学	古 泉 達 矢

＜朝鮮学部会＞（定員 100 名．Zoom）

10:30	根津美術館所蔵高麗阿弥陀如来図銘文の再検討	九 州 大 学	森 平 雅 彦
11:20	朝鮮初期における東南アジア諸国との交流	九 州 大 学	洪 寅 植
13:00	朝鮮初期における仏教宗派整理の一面 —記文・銘文の分析を中心に—	九 州 大 学	押 川 信 久
13:40	「朝鮮王子一行誓書」の虚と実 —壬辰戦争期、日本の武将に送られた一文書を読む—	新 潟 大 学	川 西 裕 也
14:20	植民地期朝鮮における歯科医療体制の形成 —歯科医師および入歯営業者の活用に着目して—	九 州 大 学	松 山 哲 希
15:15	日本人実業家の朝鮮観と植民地「開発」	韓国学中央研究院	蔣 允 杰
15:55	近代における朝鮮人の〈衣〉生活の変容 —植民地経験をめぐる聞き取り調査から	高 崎 経 済 大 学	平 野 鶴 子

＜西洋史部会＞（定員 100 名．Zoom）

10:00	財政軍事国家ブリテンにおける人的資源確保の実態（1739-48） —マサチューセッツ総督の強制徴募運用と1747年ボストン暴動を中心に—	九 州 大 学	高 橋 毅
11:00	植民地期ニューイングランド漁業の自立過程 —マサチューセッツ植民地マープルヘッドを事例として—	熊 本 大 学	藤 井 太 郎
13:00	「岩倉使節団」再考 —「帰航日程」における貿易に関する記述を中心に—	大 阪 大 学	嶽 麻 美
13:50	第一次世界大戦とドイツにおける「同性愛者」表象	九 州 大 学	松 口 優 花
14:40	ドイツ語ニュース・ダイジェスト紙に見るパレスチナ・ドイツ・ユダヤ人社会（1935-1939）	広 島 大 学	長 田 浩 彰
15:30	1980年代ライプツィヒにおける教会系環境運動の展開 —東ドイツ社会における「批判的建設的運動」の在り方—	東 京 大 学	富 岡 昇 平

＜イスラム文明学部会＞（定員 100 名、Zoom）

10:00	オスマン 2 世の廃位とその評価	九 州 大 学	牟 田 海 人
10:40	19 世紀後半オスマン帝国における汎スラヴ主義の影響	九 州 大 学	小 川 伸
11:20	初期アンダルスにおける歴史叙述と君主像	九 州 大 学	森 山 隆 弘
13:30	祝福されし去勢者：新出写本『ハーディムやハスィーの美質と美德の書』の検討	九 州 大 学	辻 大 地
14:10	マムルーク朝期のウラマーにおける詩作と学問 —覚え詩（うた）を作るために勉強する—	立 命 館 大 学	馬 場 多 聞
15:00	オスマン帝国ハレムにおける女官の職階	東 京 大 学	森 本 一 夫
15:40	16 世紀アナトリア東部における交易と権力	九 州 大 学	小 笠 原 弘 幸
		聖 心 女 子 大 学	齋 藤 久 美 子

＜考古学部会＞（定員 100 名、Zoom）

10:00	縄文時代資源利用研究における石器分析の方法論的検討	福岡市埋蔵文化財センター	板 倉 有 大
10:50	金海式甕棺前期末説・中期初頭説・中期前半説の再吟味	九 州 大 学	齋 藤 瑞 穂
11:30	弥生時代北部九州墓地の埋葬群最小単位の性格とその含意	九 州 大 学	溝 口 孝 司
13:10	南部九州における土製勾玉の出現と展開	鹿 児 島 大 学	石 田 智 子
13:50	土器の使用からみた弥生時代日本列島西半部の葬送思想 —朝鮮半島東南部との比較から—	奈良県立橿原考古学研究所	川 上 洋 一
14:30	土器からみた古墳時代開始前後における地域社会の変動 —北部九州を中心に—	長崎県埋蔵文化財センター	中 野 真 澄
15:20	古墳時代前期の積石塚古墳における墳丘石材採取の具体的様相	高松市文化財課 九 州 大 学 九 州 大 学	梶 原 慎 司 小 山 内 康 人 中 野 伸 彦
16:00	埼玉古墳群の墳丘造出しについて—二子山古墳の調査成果を中心に—	埼 玉 県 教 育 局	中 井 歩
16:40	中国初期王朝形成期の長城地帯と中原地域の間における文化要素の伝播・受容とその背景	奈良県立橿原考古学研究所	齊 藤 希
17:20	台湾考古学における外部的影響と内部的発展をどのように考えるか —鹿野忠雄「原ドンソン文化」と三和文化を事例として—	台 湾 大 学	俵 寛 司

〒819-0395 福岡市西区元岡 744 イースト 1 号館 九州大学文学部内 九州史学会事務局
E-mail: kyushushigakkai@gmail.com <https://kyushushigakkai.org/>